

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	成瀬 英之
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	宮崎 高裕

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開	兼六園周辺文化施設入館者数	人	819,600 (H29)	906,757 (H28)	862,986 (H29)	A
施策2	石川の優れた文化の継承と発展	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	113,500 (H29)	108,895 (H28)	139,645 (H29)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価				
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性			
					(年度)	(年度)									
施策1	課題	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開	美術館入館者数	人	467,500 (H29)	467,339 (H28)	433,334 (H29)	1	東京国立近代美術館工芸館名品展開催費	一般県民	3,000	3,000	A	拡大	
								2	文化財保存修復工房魅力発信事業費	一般県民	4,000	4,000	B	見直し	
								3	いしかわの工芸文化体験・鑑賞推進事業費	一般県民	5,000	5,000	B	見直し	
施策2	課題	石川の優れた文化の継承と発展	再兼六園周辺文化施設入館者数	人	819,600 (H29)	906,757 (H28)	862,986 (H29)	4	「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」普及啓発事業費	一般県民	6,500	6,500	A	継続	
								5	兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業費	一般県民	19,000	19,000	B	継続	
								6	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	12,000	11,732	B	継続	
								再	7	美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	20,763	19,749	B	継続
									再	文化財保存修復工房魅力発信事業費	一般県民	4,000	4,000	B	見直し
								8	歴史博物館特別展示費	一般県民	35,365	35,956	B	継続	
								9	石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	16,137	12,996	A	継続	
								10	いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	6,000	8,050	B	継続	
								11	文化活動支援事業費	一般県民	80,000	51,403	A	見直し	
								12	子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,500	2,495	B	継続	
								13	子ども芸術鑑賞推進事業費	小中学生	4,231	4,231	B	継続	
								14	県民移動能実施事業費	小中学生	3,000	3,000	B	継続	
								15	障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	一般県民	1,000	1,000	B	継続	

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	成瀬 英之
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	宮崎 高裕

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開	兼六園周辺文化施設入館者数	人	819,600 (H29)	906,757 (H28)	862,986 (H29)	A
施策2	石川の優れた文化の継承と発展	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	113,500 (H29)	108,895 (H28)	139,645 (H29)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題					課題に対する主な取り組み					評価									
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性							
					(年度)	(年度)													
施策2	課題	石川の優れた文化の継承と発展	人	100,000 (H29)	109,609 (H28)	111,840 (H29)	16	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催事業費	一般県民	58,000	77,200	A	継続						
							17	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	一般県民	15,640	15,640	B	継続						
							再	音楽堂入場者数	人	265,000 (H29)	246,883 (H28)	321,184 (H29)	18	音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	B	継続
													19	地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,000	10,000	B	継続
													再	子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,500	2,495	B	継続
							再	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	113,500 (H29)	108,895 (H28)	139,645 (H29)	20	伝統芸能技能向上支援事業費	一般県民	3,800	3,800	A	拡大
再	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	12,000	11,732	B	継続													

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	東京国立近代美術館工芸館名品展開催費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度	H31	作組織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成職・氏名	主任主事 金田 直樹
						者電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3854

1 事業の目的

東京国立近代美術館工芸館が、2020年を目途に本多の森に移転することが決定したことを受け、工芸館が所蔵する全国の工芸作家の作品を展示するほか、日本や石川の工芸に関する様々な関連イベントを工芸館と連携して行うことにより、工芸館移転のPRと気運醸成を図りつつ、工芸の魅力を来館者に知っていただき、文化立県石川の個性と魅力に厚みを加えることを事業の目的とする。

なお、本事業は、H29. 8月に東京国立近代美術館が公表した「東京国立近代美術館工芸館の石川県への移転に係る基本コンセプト」において、(独法)国立美術館、石川県、金沢市の3者が連携し、「石川県立美術館において東京国立近代美術館工芸館が所蔵する作品による展覧会を開催する」と明記されており、2020年の工芸館の移転に向けた気運の醸成を図ることを目的に、工芸館が移転するまでの間、毎年度開催するものである。

2 事業の概要

(1) 東京国立近代美術館工芸館名品展

内 容: 工芸館の所属作品の主力ともいえる「陶磁」をテーマとして、54点を展示
開催期間: 平成29年11月11日(土)～平成29年12月17日(日)(37日間)

(2) 講演会「日本の近現代陶芸—歴史と鑑賞—」&ミュージアムコンサート

内 容: 陶芸の歴史を紐解きながら、鑑賞方法や面白さを解説する講演会を実施
合わせて、漆塗りのバイオリンを用いたコンサートを実施
開催日: 平成29年12月2日(土)

(3) ギャラリートーク

内 容: 名品展の展示作品を東京国立近代美術館工芸課長や石川県立美術館の学芸員が解説
開催日: 平成29年11月11日(土)、12日(日)、12月10日(日)、17日(日)

(4) タッチ&トーク

内 容: 工芸館のオリジナル鑑賞プログラムであり、人間国宝の作品を含む工芸作品を、参加者が実際に手に取って間近に見ることができる<さわってみようコーナー>と会場トークの2部構成
開催日: 平成29年11月25日(土)

(5) 県・市文化施設と連携した関連イベント

① 石川県立伝統産業工芸館ワークショップ

内 容: 名品展のテーマである「陶磁」に合わせ、九谷五彩を使用した小皿の絵付け体験を実施
開催日: 平成29年10月29日(土)

② 金沢卯辰山工芸工房特別展「乾漆-KANSHITSU-展」

内 容: 「漆芸」の分野の中でも、今まで全国的に見て、あまり展示テーマの中心になかった「乾漆」にスポットを当て、特別展を実施
開催期間: 平成29年10月7日(土)～11月20日(月)

3 これまでの見直し状況

特になし

施策・課題の状況						
施策	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開					A
課題	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開					
	指標	美術館入館者数			人	
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	467,500	540,781	433,394	448,456	467,339	433,334
事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算				2,500	3,000
	決算				2,500	3,000
財源	予算				1,250	1,500
	決算				1,250	1,500
事業費累計		0	0	0	2,500	5,500
評価						
項目	左記の評価理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	H29年度は、工芸館の所蔵作品の主力ともいえる「陶磁」をテーマに展覧会を開催した結果、過去10年間の同期間と比較して、観覧者数が最多となった。 →H29年度の観覧者数: 8,429人(過去10年間の同期間で最多)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡 大	これまで、工芸館移転の気運醸成を金沢地区で図ってきたところだが、これに加え、県下全域において、気運の盛り上げを図るために、新たに加賀地区・能登地区においても工芸館の名品を紹介する展覧会を開催する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化財保存修復工房魅力発信事業費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度	-	作 成 者	組 織	文化振興課	
		根拠法令 ・計画等					職・氏名	主事 松浦 未央子	

事業の背景・目的

文化財保存修復工房が20周年を迎えるにあたり、これまで積み重ねてきた修復の実績や石川の高い修復技術を、県内・全国に向けて積極的に発信し、石川県独自の施設として更なる発展を目指す。

事業の概要

- ① 体験イベント等の充実 ※四季折々に開催するミュージアムウィーク期間中に実施
(具体例)
・特別実演【春・秋】
・子ども修復体験事業【夏】
・ワークショップ【秋】
・ミュージアムコンサート【冬】
- ② 漆芸文化財修復の情報発信
H28年に新設した「漆工芸品修復室」での修復事例を紹介するガイダンス映像の作成。
- ③ 20周年記念シンポジウム
基調講演・パネルディスカッションを行い、これまでの実績を振り返るとともに、今後工房が担うべき役割について議論を深め、情報を発信する。
- ④ 修復工房セミナー
外部講師(第一線で活躍する専門家)を招いてセミナーを実施。文化財の適切な管理・修復方法について、県内の文化財関係者に向けた普及啓発を行う。
対象:市町文化財担当者、博物館等の文化施設職員、文化財所有者(寺社等)など
テーマ:「装こう(表具関連)／漆芸文化財の管理・修復について」
- ⑤ 広報冊子の作成
修復事例や工程などを紹介し、全国の文化財・工芸関係者に向けたPRツールとして活用。

施策・課題の状況						
施策	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開				評価	A
課題	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開					
	指標	美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	467,500	540,781	433,394	448,456	467,339	433,334

事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算				2,000	4,000
	決算				1,906	4,000
一般財源	予算				2,000	2,000
	決算				952	2,000
事業費累計			0	0	1,906	5,906

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">B</p> <p>解説付きの修復実演やワークショップ等の体験イベントを実施し、文化財の保存修復について分かりやすく紹介するほか、広報冊子等のPRツール作成にも取り組み、これまでの修復実績や、石川の高い修復技術の発信に取り組んだ。また、開設20周年を記念したシンポジウムやセミナーの開催を通して、文化財修復に関する専門的な情報を発信し、文化財を後世に守り伝える石川県独自の施設としての発展につなげた。 <文化財保存修復工房入館者数> H29:31,446人、H28:32,888人</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">見直し</p> <p>H30年度は、H29年度に作成したPRツールを活用して情報発信を行うほか、新たに、これまで修復した作品を紹介するパネルの展示・解説を実施し、更なる魅力発信や利用促進に取り組んでいく。 一方で、周年記念として開催したシンポジウムについては廃止とする。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの工芸文化体験・鑑賞推進事業費	事業開始年度	H29	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作組	織	文化振興課			
成職	氏名	専門員 乾 康祐			
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3851			

事業の背景・目的
 2020年の東京五輪開催と工芸館の兼六園周辺文化の森への移転を大きな契機ととらえ、本県の強みである工芸文化を国内外に発信するため、兼六園周辺文化の森を中心に県内各地で、工芸文化を体験したり、鑑賞したりできる多彩なイベントを年間を通じて開催する。

- 事業の概要**
- (1) 講演「いしかわの工芸の巨匠に聞く」
 内容: 県内在住の重要無形文化財(人間国宝)、文化勲章受章者、日本芸術院会員のリレー講演
 時期: 5月3日(水・祝)、8月12日(土) 計2回
 - (2) 工芸制作体験ワークショップ
 内容: 地元作家を講師とした陶芸や沈金、木工、染織などの制作体験
 時期: 通年 計10回
 - (3) 工芸品の器を使った食談義
 内容: 九谷焼などの伝統工芸品で食事を提供し、両者の関係について語る
 時期: 2月12日(月・振休) 1回
 - (4) 技術研修所見学ツアー
 内容: 一流の工芸作家らが指導する技術研修所(九谷焼、輪島塗、山中漆器)の見学と体験
 時期: 加賀コース10月13日(金)、能登コース11月17日(金)
 - (5) 工芸文化の歴史講座
 内容: 加賀藩歴代藩主の工芸施策や個々の工芸品の歴史などについて解説
 時期: 11月4日(土)、2月11日(日・祝) 計2回
 - (6) 学校出前講座
 内容: 美術館学芸員による工芸に関する作品鑑賞講座の開催
 時期: 1月6日(土) 1回
 - (7) 鷹峯フォーラム連携講演会
 内容: 鷹峯フォーラム(※)と連携した、本県の工芸の魅力についての講演会
 時期: 11月11日(土) 1回
 ※「工芸の祭典」と言われ、京都・東京に続き本県で開催

施策・課題の状況							
施策	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開				評価	A	
課題	「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」の展開						
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	819,600	712,928	653,430	892,998	906,757	862,986	

事業費						
(単位: 千円)		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算					5,000
	決算					5,000
財源	予算					2,500
	決算					2,500
事業費累計		0	0	0	0	5,000

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	H29年度から新たに、本県が誇る工芸の魅力に触れる機会として、講演会やワークショップ、バスツアーなど工芸文化を体験したり鑑賞したりできる多彩なイベントを年間を通じて開催した結果、各イベントの参加者数は約800人となり、県民や観光客に対して工芸文化を広く発信し、「工芸王国石川」への理解・関心度の向上が図られた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	H30年度は、新たに加賀・能登地区で行われる工芸館の所蔵品を活用した展覧会の開催に併せてワークショップを拡充(10回→12回)する。 一方で、「鷹峯フォーラム」の関連事業として開催した連携講演会は廃止とする。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」 普及啓発事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 市野 美里		
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3844			

事業の背景・目的
 県民の文化意識の向上を図るため、「いしかわ文化の日」及び「いしかわ文化推進期間」の期間中、各種イベントの集中実施及び各施設・市町と連携した一体的なPRにより、より多くの県民が文化に親しむことのできる機会を創出し、文化施設のさらなる利用促進と県民の文化意識の向上を図る。

事業内容

(1) 「いしかわ文化の日」普及事業 (10月15日(日))

ア いしかわ文化の日記念イベントの開催

- ・会場：能美市根上総合文化会館 音楽ホール(タント) (650人)
- ・内容：①オープニング公演(次代の担い手の競演)
ジャズ(金沢ジュニア・ジャズ・オーケストラJAZZ-21)
和太鼓(手取亢龍若鮎組)
- ②知事挨拶
- ③宮本亜門氏 講演

イ 文化施設の県民入場無料の普及・啓発

- ・県内文化施設の当日県民入場無料化(116施設)
- ・啓発チラシの作成、配布

(2) 「いしかわ文化推進期間」普及事業 (10月15日(日)～11月3日(金・祝))

ア 金沢・加賀・能登の周遊を促すスタンプラリーの実施

- ・県内文化施設来場者を対象としたスタンプラリーを実施
- ・複数の文化施設来場者に景品を交付

イ 協賛事業イベントガイドの作成(178事業)

- ・期間中に実施される県内の文化イベント情報を取りまとめた冊子の作成、配布
- ・文化施設、観光施設、商業施設等に設置

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	819,600	712,928	653,430	892,998	906,757	862,986
事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算			5,000	6,500	6,500
	決算			5,000	6,500	6,500
財源	予算			5,000	6,500	6,500
	決算			5,000	6,500	6,500
	事業費累計	0	0	5,000	11,500	18,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	「いしかわ文化の日」では、県民が文化に親しむことができるよう、県内文化施設で県民入場無料化を実施し、制度導入前に比べ入館者数が大幅に増加した。 【入館者数】H29:46,216人(導入前(H26)の約1.6倍) また「いしかわ文化推進期間」では、期間中の協賛事業数が増加しており、県民が多様な文化に触れ、関心や理解を深める機会の充実が図れた。 【協賛事業数】H29:178 H28:147 H27:127				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	「いしかわ文化の日」の記念イベントについて、金沢だけでなく、加賀や能登の会場でも巡回的に実施していくことで、県全体で広く文化に親しむ機会を創出していく。また、イベントガイドの内容についても充実を図り、「いしかわ文化推進期間」における各種文化イベントへの参加を促すなどし、県内全域の文化活動を一層盛り上げていけるよう取り組んでいく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等			

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	専門員 乾 康祐			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3851			

事業の背景・目的
北陸新幹線の金沢開業と文化振興条例の制定を大きな契機ととらえ、首都圏をはじめ県内外の方々に藩政期より培われた本県が誇る質の高い伝統文化に触れてもらうため、四季折々に兼六園周辺文化の森で各施設の特長を活かしたイベントを開催する。

- 事業の概要**
- 1 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業の実施
 - (1) ミュージアムウィークの開催
 交付先: 兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会
 - ①春 ～新緑の文化の森を周遊しよう！～
 時期: 4月29日(土・祝)～5月7日(日)(GW期間中)
 内容: 文化の森フォト・ウォークラリー、特別講演会など
 - ②夏 ～夏の夜の文化の森に集う～
 時期: 8月4日(金)～20日(日)
 内容: 光の芸術文化回廊(デジタル掛け軸ほか)、能と尺八スペシャル公演など
 - ③秋 ～石川が誇る伝統文化を楽しむ～
 時期: 10月15日(日)～11月5日(日)
 ※いしかわ文化推進期間: 10月15日(日)～11月3日(金・祝)
 内容: スペシャル朗読会、スイーツパフォーマンス会など
 - ④冬 ～いしかわの文化を味わう～
 時期: 平成30年2月3日(土)～12日(月・振休)
 内容: 食文化に関する講演会、食談義など
 - (2) 石川県・金沢市文化施設共通鑑賞パスポートの期間限定販売
 対象施設: 県6施設(美術館、歴史博物館、四高記念館、伝統産業工芸館、からくり記念館、銭屋五兵衛記念館)
 市17施設(中村記念美術館、能楽美術館、鈴木大拙館など)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	819,600	712,928	653,430	892,998	906,757	862,986

事業費						
	(単位: 千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	8,400	13,000	18,000	19,000	19,000
	決算	8,400	13,000	25,644	19,000	19,000
一般	予算	8,400	13,000	0	19,000	9,500
	決算	8,400	13,000	0	9,500	9,500
財源	決算	8,400	13,000	0	9,500	9,500
事業費累計		65,932	78,932	104,576	123,576	142,576

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	ミュージアムウィークを年4回、四季折々に開催し、多彩な文化イベントや新規事業を展開した結果、季節に応じた趣向を凝らした鑑賞機会を提供することができた。また、期間中の本事業対象県施設の入館者数は約43万人となり、前年度と比較しても9%増と、これまで文化施設を訪れたことのない方の掘り起こしやリピーターの増加に貢献した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	北陸新幹線金沢開業で増大した観光客をもてなし、「いしかわ文化振興条例」に定めた「県民が文化に親しむ機会の充実」を図るため、引き続き四季折々に魅力あるイベントを開催する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職・氏名	主任主事 寺田 陽亮			
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3847			

事業の背景・目的
 子どもたちが本県の文化に深く親しむことは、本県文化の振興を図っていく上での礎ともなる重要な施策であるため、兼六園周辺文化の森を中心に、県内の様々な文化施設において多彩な文化体験メニューを提供し、子ども達に本県の質の高い「本物の文化」の奥深い魅力や真髄を五感を通じて体感してもらう。

- 方針**
- 条例を拠り所に、いしかわの次代の文化を担う子どもの文化体験機会を大幅に拡充(H28)
 →兼六園周辺文化の森を子どもたちの文化体験のメッカと位置づけ、県内の様々な文化施設において、100を超えるメニューを提供。(H28.12.31現在で、163メニュー実施済)
 →多くの子どもたちに参加いただき、「もっといしかわのことを知りたくなった」などの声もいただいております。本県の「文化の裾野の拡大」に寄与している
 - H29年度は、①体験施設が兼六園周辺文化の森周辺に偏っていること、②伝統工芸・芸能の人気が高いことを踏まえ、文化体験機会の充実を図り、200を超えるメニューを提供



これまでの見直し状況
 平成27年度に行った「いしかわ子ども伝統芸能チャレンジ推進事業」で実施した伝統芸能体験に加え、音楽や伝統工芸などの100を超える多彩な文化体験を提供することとした。

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標				単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	819,600	712,928	653,430	892,998	906,757	862,986
	指標				単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	113,500	111,144	94,229	109,831	108,895	139,645
事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算			5,000	12,000	12,000
	決算			1,810	11,281	11,732
一般	予算			0	12,000	6,000
	決算			0	5,641	5,865
事業費累計		0	1,810	13,091	24,823	

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 兼六園周辺文化の森を中心とした文化施設において、子どもを対象とした多彩な文化体験メニューを提供し、伝統芸能をはじめとする幅広い分野に興味を持ち始めるきっかけを作ることにより、文化のすそ野の拡大に寄与している。 H29メニュー数 244メニュー(H28比+55メニュー) H29参加者数 延べ21,746人(H28比△706人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 引き続き、メニュー数200以上、参加者数20,000人を目標とし、「兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク」と連携して、本県の優れた文化の分野を網羅する形で、子どもたちが文化の魅力を知り、機会を充実させていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度 S58	事業終了予定年度	作 組 織 県立美術館	成 職・氏名 企画管理専門員 新保 勝也
	根拠法令 ・計画等		者 電話番号 076 - 231 - 7580 内線 6510	

1 事業の目的
美術に対する理解を深めるため、特定のテーマに基づく作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。
また、こうした場を提供しつつ、兼六園周辺文化の森に立地する特長を生かし、憩いの空間として県内外のお客様に広く親しまれる美術館となることを事業の目的とする。

2 事業の概要

(1) 石川県文化財保存修復工房設立20周年記念
「文化財の保存と修復 ―過去・現在・そして未来へ―」展

① 会 期 : 平成29年4月22日～5月28日(会期 37日間)

② 内 容 : 平成9年に石川県立美術館の付属施設として開設した、石川県文化財保存修復工房が設立20周年を迎えるにあたり、これを記念した展覧会を開催する。
内容は、これまで同工房にて修復した作品の展示を行いながら、「文化財修復」の観点から加賀の文化や歴史をあらためて概観し、修復工房のこれまでのあゆみも分かるものとする。
また、併せて文化財修復の現状や課題など、広くお客様に知っていただける内容の企画展とする。

(2) 「燦(きら)めきの日本画 ―石崎光瑠と京都の画家たち―」展

① 会 期 : 平成29年9月23日～10月22日 (会期 30日間)

② 内 容 : 金沢で本格的に日本画の基礎を学び、江戸琳派と四条派という二つの流れを汲む、燦めく宝石のような花鳥画をのこした石川に縁ある日本画家、石崎光瑠を取り上げる。また、彼が師事した二人の画家、江戸琳派直系の山本光一と京都四条派の流れを汲む竹内栖鳳の系譜を、その代表作でとりつつ、明治から戦前という日本画の絢爛たる時代をめぐる展覧会とする。

(3) 「森羅万象をまとう ―木村雨山・二塚長生の仕事―」展

① 会 期 : 平成30年1月4日～2月12日 (会期 40日間)

② 内 容 : 加賀の手描き友禅をベースに、独自の作風を展開した加賀友禅の人間国宝、木村雨山(きむらうざん)と二塚長生(ふたつか おさお)の二人展を開催する。
近代工芸の黎明期から精力的に制作を続け、日本画の技法を友禅に応用した木村雨山と、模様を白く表す「白上げ」と呼ばれる技法を駆使し、水や風等の自然の動きを抽象的に表現した二塚長生の作品を展示し、石川の代表的な伝統工芸である「加賀友禅」を再認識していただく機会とする。
その他、当館学芸員によるギャラリートークや、友禅作家を招いてのアーティストトークを開催し、加賀友禅に対する理解深化も事業の目的とする。

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	467,500	540,781	433,394	448,456	467,339	433,334

事業費						
(単位:千円)		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	31,528	17,316	52,757	20,763	20,763
	決算	31,140	16,254	52,712	19,921	19,749
一般	予算	6,144	6,144	23,178	5,063	8,847
	決算	3,126	7,668	22,923	13,106	9,286
事業費累計		463,239	479,493	532,205	552,126	571,875

評価	
項目	左記の評価理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B H29年度は、石川の文化財や工芸、ゆかりある作家をテーマとした企画展を開催したが、冬の大雪の影響から入館者数が伸び悩んだことや、新幹線開業後の県外からの来館者数が一段落したこと等により、入館者数が前年度比減となった。 H29美術館入館者目標 467,500人 実績 433,334人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することで、美術館のより一層の入館者増を目指す。 また、学芸員による展示解説や子供に対する普及活動の充実にも努め、県民に親しんでいただける美術館として、魅力を高めつつ、郷土の優れた美術品を後世に伝えられるよう、その保存にも万全を期す。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	歴史博物館特別展示費	事業開始年度	S 62	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		・計画等			

作	組	歴史博物館			
成	職	氏名	総務課長	皆戸	靖彦
者	電	話	番	号	076 - 262 - 3236 内線 6511

事業の背景・目的
 独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い、県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となることを目的としている。

(1) 春季特別展
 展覧会名称：北前船と日本海海運
 開催期間：4月22日（土）～5月28日（日） 37日間
 入館者数：7,176人
 概要：本展では、加賀能登をはじめ加賀藩領内に存在した大船主「廻船問屋」の活動を中心に、縦横無尽に行き来して日本海に巨大な流通ルートを築き上げた「北前船」の歴史と文化を紹介した。また、北前船文化への理解を深めるため、会期中、県内の北前船寄港地見学ツアーや北前船の模型作りなど、各種ワークショップやシンポジウムを開催した。

(2) 夏季特別展
 展覧会名称：イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐるー
 開催期間：7月22日（土）～9月3日（日） 44日間
 入館者数：4,883人
 概要：本展では、国立民族学博物館の膨大なコレクションの中からとりわけユニークな世界各地の造形を精選し、人類が生み出したイメージの喚起する感覚や効果に普遍性があるか検証した。また、会期中、民族文化に親しんでもらうため、インドの刺繍体験や仮面作りなど各種ワークショップを開催した。

(3) 秋季特別展
 展覧会名称：禅の心とかたちー總持寺の至宝ー
 開催期間：9月16日（土）～11月5日（日） 51日間
 入館者数：11,075人
 概要：本展では、開祖、二祖の遠忌を記念し、大本山總持寺が所蔵する至宝を一挙公開するとともに、總持寺祖院をはじめとした関連寺院の寺宝もあわせて紹介し、總持寺の歴史と文化を紹介した。また、会期中、禅文化への理解を深めるため、禅寺バスツアーや枯山水作り、シンポジウムなど各種事業を開催した。

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	歴史博物館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	112,000	-	-	185,206	164,597	155,586
※H25, H26リニューアル工事のため休館						
事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	0	4,637	39,307	27,805	35,365
	決算	0	2,470	39,113	27,165	35,956
一般財源	予算	0	4,637	19,468	9,473	19,081
	決算	0	2,470	19,220	6,886	19,903
事業費累計		0	2,470	41,583	68,748	104,704
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		B	展覧会の魅力をアップするために、リニューアル前に比べて展示規模を拡大させ、さらに展覧会に関連した講演会やワークショップを実施した。 特別展の入館者は前年とほぼ横ばいであったが、館内アンケートは満足したという意見が95%以上となっており、好評を得たと評価できる。 <特別展入館者> H29:23,124人 H28:23,708人			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		継続	今後も石川県の歴史や文化の魅力を新たな視点から発信するとともに、歴史や文化にさまざまな人々に親しんでもらえるよう事業に工夫を加えていく。		

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川四高記念文化交流館事業費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等			
				作 組 織 石川四高記念文化交流館
				成 職・氏名 専門員 山岸吉輝
				者 電話番号 076 - 262 - 5464

事業の背景・目的
 石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々に利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

事業の概要

1 石川四高記念館

- ・施設の概要
 - 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
 - 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置
- ・主な事業
 - 常設展示(4室)
 - 企画展の実施
 - 「四高略史・旧制高校の制度と校風」
 - 小中学校絵画展
 - 三文豪館とのスタンプラリー
 - 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年4回) など

2 石川近代文学館

- ・施設の概要
 - 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館(公益財団法人石川近代文学館へ事業を委託)
- ・主な事業
 - 常設展示(8室)
 - 企画展の実施
 - 「乙女の文学展—石川ゆかりの作家の少女向け読み物-(前期 4/22~6/18 後期 6/24~8/20) 明治期に生まれ、昭和に至るまで隆盛を誇った「少女雑誌」。当時の女学生らの文化・風俗などを紹介すると共に、室生犀星・徳田秋聲・竹久夢二ら石川県ゆかりの作家を中心に、文豪による少女向け読み物を紹介する。
 - 「漱石周辺の人たち—漱石と石川ゆかりの作家たち—」 (9/16~11/26) 夏目漱石と親交のあった石川県ゆかりの作家たちの関係資料を紹介。また、漱石宛ての絵はがきを徳田秋聲記念館と連携して展示することとし、当館においては、四高関係者の漱石宛ての絵はがきなどを公開する。
 - 「学校のある風景—学都金沢の青春小説—」 (1/6~3/11) 青春小説について、舞台を「学校」に置き、文学が絶えず書き残そうとしてきた「人生の痛みと輝き」を紹介。また、子どもたちが語り継いできた「学校の怪談」を、絵本なども交え紹介する。

ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の実施

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展			評価	A	
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	石川四高記念文化交流館入館者数		単位	人	
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	173,100	144,221	167,912	187,385	199,458	201,908

事業費						
(単位:千円)		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	15,289	16,137	16,137	16,137	16,137
	決算	15,133	15,550	12,633	12,778	12,996
一般	予算	12,455	12,517	12,517	12,517	12,517
	決算	13,128	13,455	8,440	10,099	9,489
事業費累計		91,372	106,922	119,555	132,333	145,329

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	石川四高記念館においては、「四高略史・旧制高校の制度と校風」などの企画展を実施した。多目的利用室においては大学のサテライト教室や文学講座に利用されているほか、四高出身者等による講座「フレッシュ新三々塾」や朗読会などを行い、全体の利用者も前年度を上回り、金沢中心部における賑わいの創出に貢献した。 H28実績: 199,458人、H29実績: 201,908人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	企画展の実施や機をとらえた常設展の展示替えなどを行い館の魅力を高めていくほか、県内外の小中学校、旅行代理店、近隣の宿泊施設などにも積極的に広報活動を行い、館の存在をアピールしていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作組	織	文化振興課			
成職	氏名	専門員 橋岡 千春			
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853			

事業の背景・目的

定期的に能楽を上演、鑑賞する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。
平成29年度より「観能の夕べ」上演前に演目に関する体験を行い能楽愛好者の裾野拡大を図った。

事業の概要

- 内容**
- 1 能楽鑑賞
「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
①「夏の観能の夕べ」(特別公演1回、一般公演8回)
平成29年7月1日～8月26日 全9回(毎週土曜日)
午後6時30分～午後8時30分
②「冬の観能の夕べ」
平成30年1月～3月の期間中 全5回(土曜日)
午後2時30分～午後4時30分
 - 2 能楽体験
「観能の夕べ」上演前に演目に関する体験を実施。
定員:20名/回(要事前予約、申込順)
- 会場** 石川県立能楽堂
主催 いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会
対象 一般
入場料
- ①「夏の観能の夕べ」
特別公演 3,000円/回
一般公演 1,000円/回
 - ②「冬の観能の夕べ」
前売り 1,000円/回
当日 1,200円/回
 - ③能楽体験
無料(ただし、当日の鑑賞者に限る。)

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	能楽堂入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	53,000	50,450	48,017	50,524	54,532	53,522

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業					
事業費					
(単位:千円)					
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	3,500	3,500	5,000	5,000	6,000
予算	3,500	3,500	5,000	5,000	6,000
決算	2,994	2,280	6,200	3,500	8,050
一般	3,500	2,280	0	0	0
予算	3,500	2,280	0	0	0
決算	2,994	3,500	0	0	0
財源	2,994	3,500	0	0	0
決算	2,994	3,500	0	0	0
事業費累計	67,845	70,125	76,325	79,825	87,875

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p>「観能の夕べ」は、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供しているほか、平成29年度は、大雪の影響で入場者数が減少したものの、公演回数を確保することにより能楽師の技術向上にも貢献している。</p> <p>観能の夕べ入場者数 H29:3,295人(H28:3,772人) 観能の夕べ「能楽体験」体験者数 H29:302人 能楽堂利用者数 H29:53,522人(H28:54,532人)</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">継続</p> <p>多くの県民に伝統芸能である能楽を気軽に親しんでもらい、本県能楽界の振興・発展につなげるため、今後も「観能の夕べ」及び能楽体験を継続することにより、能楽に触れる機会が少ない県民層を掘り起こし、さらなる能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 文化活動支援事業費	事業開始年度 H27	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	いしかわ文化振興条例

作 組 織	文化振興課
成 職・氏名	主事 高 尚也
者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3844

事業の背景・目的
 県内の文化団体が新たに実施する文化活動に対して助成金を交付することにより、文化の担い手である県民の自主的・主体的な文化活動を支援し、本県の優れた文化の更なる向上と裾野の拡大を図る。

事業の概要

事業名	文化活動支援事業	
	文化創造普及事業	地域文化活性化事業
対象事業	県全域を対象として文化活動を行う文化団体が実施する事業 (新規性のあるものに限る)	市町において文化活動を行う文化団体が実施する事業 (新規性のあるものに限る)
助成対象期間	最大3年間(初年度に事業認定)	
	初年度に助成金を一括交付	助成金は毎年度交付
助成率	最大で全体事業費の1/2	
	※次の①②のいずれか小さい額の範囲内かつ助成限度額の範囲内 ① 助成対象経費 × 1/2 ② 事業費 - 事業収入(入場料収入等)	
助成限度額	最大 300万円(3年間) 1年間事業 10~100万円 2年間事業 20~200万円 3年間事業 30~300万円	最大150万円(3年間) 毎年度 5~50万円
申請方法	基金へ直接申請	市町を経由して申請
審査方法	民間有識者等による選考委員会において審査	

施策・課題の状況							
施策	石川の優れた文化の継承と発展					評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	13,500	11,609	13,200	12,225	13,700	12,838	

※いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算			80,000	80,000	80,000
	決算			61,531	63,739	51,403
一般財源	予算			0	0	0
	決算			0	0	
	事業費累計			0	61,531	125,270
					176,673	

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのような取り組みのか)	見直し
左記の評価の理由	
平成29年度事業では、広範な分野について応募があり、それら文化団体の創意溢れる様々な取り組み37件を事業認定・助成した。中には、短歌や彫刻、水墨画、版画、影絵芝居、オペラ、剣詩舞道、酒(食文化)など、昨年までの認定にはない新たな分野の取り組みが含まれ、多様な分野での活用が広がっている。これにより、文化団体の自主的・主体的な活動を促進し、本県文化の更なる向上と裾野の拡大に寄与している。	
本県文化を将来にわたり受け継ぎ発展させていくため、平成30年度から、子どもを対象とした事業や、次の担い手を育成する指導者の養成事業について助成を拡充するほか、将来を嘱望される若手芸術家の活動も新たに支援することとした。今後も、本県の優れた文化の更なる発展・継承を図るため、引き続き文化団体や個人の自主的・主体的な活動の支援を行う。	

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 子どものための音楽文化推進事業費	事業開始年度 H28	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	

作 組 織	文化振興課
成 職・氏名	専門員 杉森 蓉子
者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
「いしかわ文化振興条例」の基本理念に基づき、本県の文化の裾野の拡大とさらなる高みを目指すため、洋楽(クラシック音楽)・邦楽を嗜む新たな県民の掘り起こしを図る。

事業の概要

1 洋楽・邦楽リーフレットの作成・配布

(1) 目的
洋楽・邦楽に無関心な層等を対象とした手引書の作成・配布により、音楽を嗜む県民の裾野拡大を図る。

(2) 内 容
子どもを対象とした、洋楽・邦楽の基礎知識をまとめたリーフレットの作成・配布

①洋楽
・クラシック音楽とは？(歴史、楽器、編成等の基礎知識)
・代表的な作曲家とその代表曲
・コンサートに行くには？(服装、マナー等)
・音楽堂、OEK紹介 など

②邦楽
・邦楽の歴史、楽器について
・音楽堂邦楽ホール紹介 など

(3) 作成部数
各30,000部

(4) 配布先
県内小学校(6年生)、各市町、各種イベント、音楽教室等

2 はじめてのコンサート開催(音楽文化振興事業団への補助金)

(1) 目的
リーフレット等で興味を持った人に、実際にコンサートに足を運んでもらう

(2) 内 容
既存の音楽堂主催のコンサートのうち1公演を、初心者向けのコンサートとする

(3) 特 徴
①リーフレット等を活用した丁寧なMC解説(楽器紹介、鑑賞マナーなど)
②楽器体験コーナーの設置

(4) 開催回数
2回

(5) 出 演
OEK、石川県ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブルほか

(6) 費用負担
県補助金 : 初心者向けコンサートに係るMC費用
音楽文化振興事業団 : 既存のコンサート費用(演奏者出演料、ホール使用料等)

施策・課題の状況							
施策課題	石川の優れた文化の継承と発展					評価	A
	石川の優れた文化の継承と発展						
	指標		芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値		現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	13,500	11,609	13,200	12,225	13,700	12,838	
指標		音楽堂入場者数			単位	人	
目標値		現状値					
平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
265,000	250,272	206,473	262,241	246,883	321,184		

※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
(単位:千円)		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算				3,000	2,500
	決算				4,067	2,495
一般財源	予算				0	0
	決算				0	0
事業費累計			0	0	4,067	6,562

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	小学生等に対して、冊子の配布やコンサートの開催により、音楽(クラシック音楽・邦楽)に親しむ機会を提供し、音楽を嗜む県民の掘り起こしに寄与した。 <はじめてのコンサート入場者> H29:1,113人 H28:1,009人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	音楽文化に親しむ県民の裾野拡大を目指し、引き続き、普段邦楽等に触れる機会の少ない子供たちを中心として、音楽に触れる機会を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	子ども芸術鑑賞推進事業費	事業開始年度	S57	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 毛利 優子		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1371 内線 3854

事業の背景・目的

子供たちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し、芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

事業の概要

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
(公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託 県内で5公演を実施
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)
(公社)日本児童青少年演劇協会に委託 県内で10公演を実施
- 3 古典芸能鑑賞教室
「越後獅子」班 (杵屋弥三辰社中、田中杉芙勢社中、藤間勘菊社中)
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、前川晴笙中、藤間勘寿々社中)
この2班で県内4公演を実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	13,500	11,609	13,200	12,225	13,700	12,838
※H27～いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	4,231	4,231	4,231	4,231	4,231
	決算	4,165	4,209	4,187	4,209	4,231
一般	予算	4,231	4,231	0	0	0
	決算	4,165	4,209	0	0	0
事業費累計		289,133	293,342	297,529	301,738	305,969
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県内の子どもたちにオーケストラや古典芸能など、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、豊かな感性と創造性をはぐくむことに寄与している。 H29鑑賞者数:8,259人(H28:8,619人)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本物の芸術に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。よって、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。 ただし、市町の財政状況等により開催希望数は減少しつつあり、今後は市町に積極的に開催希望数が増加するよう働きかけをしていく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	県民移動能実施事業費	事業開始年度	H2	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	・氏名	専門員 橋岡 千春		
者	電	話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853		

事業の背景・目的
鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童・生徒等に生の舞台芸術にふれる機会を提供することにより、能楽愛好者の増加を図る。

事業の概要
県内市町にて2公演(1公演/1市町)下記事業を実施する。

内容
仕舞、舞囃子、狂言1番、能1番
開催市町の児童・生徒によるワークショップ

公演日、会場
①5月23日(火) 能登町立能都中学校第一体育館(鑑賞者数 239人)
②11月13日(月) 輪島市文化会館大ホール(鑑賞者数 555人)

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	13,500	11,609	13,200	12,225	13,700	12,383
※～H26石川県文化振興基金事業 ※H27～いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	決算	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
一般財源	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		72,000	75,000	78,000	81,000	84,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「県民移動能」は、能楽の鑑賞機会の少ない地域に能楽師が出向き、児童、生徒等に生の舞台芸術にふれる機会や、能楽の体験の機会を提供しており、児童・生徒等が本県の豊かな古典芸能の理解を深めることに貢献している。 県民移動能鑑賞者数 H29:794人(H28:428人) 公演回数 H29:2回(H28:2回)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県を代表する古典芸能である能楽に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるなどの意見が多いことから、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	事業開始年度	H9	事業終了予定年度	
		根拠法令	石川県バリアフリー社会の推進に関する条例		
		・計画等	(H9.3)		

作	組	織	文化振興課		
成	職	・氏名	専門員 橋岡 千春		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1371 内線 3853

事業の背景・目的

障害の有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を実現することで、より幅広い層の県民に石川の文化にふれる機会を提供する。

事業の概要

- 1 事業名 ふれてみるいしかわの文化展
- 2 会場 石川県立歴史博物館
- 3 期間 平成29年12月3日(日)～9日(土) 7日間
- 4 対象 主に障害者の方(視覚障害者や車椅子使用者等)、一般県民
- 5 内容 彫刻展、ミニコンサート 等

これまでの見直し状況

- H19: 触れることが可能な歴史資料の展示
- H20: 朗読観賞会の充実(2回実施)
- H21: 音楽観賞会の開催
- H22: 音楽鑑賞会における体験コーナーの実施
- H23: 来場者が自由に参加できるワークショップを実施
- H24: 歴史資料等をクイズ形式で展示
- H25: 県立図書館職員によるおはなしの会(手遊び、パネルシアター等)を実施
- H26: 県立図書館職員によるおはなしの会(手遊び、ペープサート等)を実施
- H27: 親子彫刻ワークショップや、ガイドツアーを実施
- H28: 音楽鑑賞会における体験コーナー(箏)を実施

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	13,500	11,609	13,200	12,225	13,700	12,838

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業					
事業費					
(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	480	400	1,000	1,000	1,000
一般	480	400	0	0	0
財源	480	400	0	0	0
事業費累計	25,564	25,964	26,964	27,964	28,964

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center;">B</p> <p>「ふれてみるいしかわの文化展」では、著名な彫刻家の作品をじかに触れて鑑賞する機会等を提供し、文化事業のソフト面においてもバリアフリー化を推進し、障害のある方も含めより幅広い層の県民に本県の文化に触れる機会を提供することに貢献している。</p> <p>入場者数 H29:1,284人(H28:1,309人) 平均入場者数 H29:183人/日(H28:187人/日) 入場者のうち障害者数 H29:186人、(H28:145人)</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="text-align: center;">継続</p> <p>芸術を鑑賞する機会が限定されがちな障害のある方にとって、本事業は芸術に触れる経験のできる貴重な場となっていることから、引き続き文化展を開催していく。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催事業費	事業開始年度	H29	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 松本 隼樹		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1372 内線 3839

事業の背景・目的
 平成20年より昨年までゴールデンウィークに開催されてきたクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭」は、他都市のラ・フォル・ジュルネ音楽祭とは一線を画し、伝統芸能である能舞とクラシックの競演や、吹奏楽の日といった県民参加型のプログラムなど、本県独自に企画する創意工夫を凝らした公演を多数実施してきており、こうした公演が県民をはじめとした観客に高く評価され定着してきたことが、これまでの成功の大きな要因となっている。

しかし、本県の独自性をこれまで以上に充実しようとする場合、他都市のラ・フォル・ジュルネ音楽祭と統一で設定されたテーマや、全国共通のプログラムを実施しなければならないという制約があった。

一方、音楽祭の実施主体である県音楽文化振興事業団では、これまで様々な事業を通じ、県立音楽堂やオーケストラ・アンサンブル金沢を運営する中で、ノウハウを蓄積しており、単独で音楽祭を開催する力を十分つけてきたところである。

このため、平成29年度からは、ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭に替わる音楽祭を開催し、石川の多彩な音楽文化の魅力を県内はもとより全国に向けて発信する。

事業の概要

- 1 開催時期: 平成29年4月28日(金)～5月5日(金祝) 8日間
- 2 会場: 県立音楽堂、金沢市アートホール、JR金沢駅周辺
しいのき迎賓館、赤羽ホール、加賀・能登地区の文化施設ほか
- 3 内容: (1)世界的な作曲家などをテーマにした本格的なクラシックコンサート
オーケストラ・アンサンブル金沢に加え、ドイツや台湾の一流オーケストラなどによるベートーヴェンの全曲演奏(ベートーヴェン・チクルス)など

 (2)伝統芸能「邦楽」の新たな魅力の発見
石川が誇る伝統芸能である素囃子の公演や雅楽とクラシックのコラボレーションなど

 (3)県民が楽しみながら気軽に親しめるクラシックコンサート
北陸3県から参加者を募集する合唱団と観客が一体となって第九「歓びの歌」を合唱するコンサートなど

 (4)石川が育んだ若手音楽家たちの共演
いしかわミュージックアカデミー出身者などの国内外で活躍する若手音楽家によるコンサートなど

 (5)地元演奏家や子どもたちとともに、みんなで楽しむ参加型プログラム
地元吹奏楽団やオーディションで選抜した地元演奏家による県民参加型プログラムなど
- 4 来場者数: 111,840人

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭来場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	100,000	103,322	105,820	122,024	109,609	111,840
※H28までは参考にラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数を記載						

事業費						
(単位:千円)						
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
事業費	予算	43,000	43,000	53,000	53,000	58,000
	決算	43,000	40,000	63,000	46,750	77,200
一般	予算	13,000	13,000	23,000	13,000	18,000
財源	決算	13,000	13,000	23,000	13,000	18,000
事業費累計		88,976	128,976	191,976	238,726	315,926

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	10万人を超える来場者数を数え、ゴールデンウィークにおける地域の音楽祭として、一流の演奏を鑑賞する機会を提供するとともに、伝統芸能である雅楽とクラシックの競演や、吹奏楽の祭典ほか地元演奏家、子どもたちによる県民参加型プログラムなど、本県独自に企画する創意工夫を凝らした公演が、県民を始めとした観客に高く評価され、音楽ファンの拡大や地域の賑わい創出に寄与した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	一流の演奏を鑑賞する機会の提供に加え、地域に密着した石川の音楽文化を発信する場として、石川らしい内容を盛り込むなどの工夫をしながら、引き続き開催する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	専門員 杉森 蓉子		
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850			

事業の背景・目的
国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンをを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

事業の概要

- 1 事業名 2017いしかわミュージックアカデミー
- 2 期間 平成29年8月16日(水)～25日(金) 10日間
- 3 会場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター ほか
- 4 主催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会 会長(石川県知事)谷本正憲
- 5 内容
 - (1) スクール部門
 - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象
ヴァイオリン50人、チェロ9人、ピアノ18人
 - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象
ヴァイオリン5人、ピアノ13人
 - ③ 受講生ソロ発表会(マスタークラス受講生)
 - (2) コンサート部門
 - ① IMAチェンバーコンサート
:アカデミー講師による室内楽コンサート(県立音楽堂)
 - ② IMAライジングスターコンサート
:IMA音楽賞受賞者及び世界的コンクール入賞者などによるコンサート (県立音楽堂)
 - ③ ミニコンサート
:受講生が県内各地を訪問して行うコンサート(県内各地の特別支援学校、福祉施設等)
 - (3) 県内若手音楽家育成事業
 - ① 基礎クラス優秀者に対する特別レッスンの開催(IMA開催後に実施)
 - ② IMA講師による無料体験レッスンの開催
 - (4) フェロシップ制度
優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘する。
 - (5) IMA20周年記念事業
 - ① IMA20周年記念スペシャルコンサート
:IMA出身者で国際的に活躍するソリスト等とOEKが共演するコンサート
 - ② いしかわ・金沢楽都音楽祭における中・小編成公演
:IMA20周年PRを目的としたIMA出身者による弦楽合奏や弦楽四重奏のコンサート

施策・課題の状況							
施策	石川の優れた文化の継承と発展					評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展						
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数			単位	人	
	目標値	現状値					
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	1,800	1,770	1,710	1,719	1,557	1,537	
事業費							
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
事業費	予算	14,420	14,420	15,920	15,820	15,640	
	決算	14,420	14,420	15,920	15,820	15,640	
一般	予算	14,420	14,420	14,420	15,820	15,640	
財源	決算	14,420	14,420	14,420	15,820	15,640	
	事業費累計	417,415	431,835	447,755	463,575	479,215	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中から著名な国際コンクールや国内有数のコンクールに優勝及び上位入賞するなどの実績もあり、本県の音楽文化の発信に大きく寄与している。 また、レッスンの一般公開のほか、IMA講師とOEKメンバーが共演するコンサートや受講生によるミニコンサートの開催など、県民が音楽に親しむ機会を幅広く提供している。 鑑賞者数 H29:4,609人、H28:3,176人					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	若手音楽家の育成事業である本事業では、近年、過去の受講生が講師となって石川に戻ったり、本県で開催されたコンサートに出演するなどの具体的な成果が表れている。このような効果をさらに発揮するため、今後も長期的な視野に立ち、事業を継続していくとともに、県内の受講生をさらに増やすため、小中学生向けの体験レッスンなども引き続き実施していく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度	H14	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作組織	文化振興課			
成職・氏名	専門員 杉森 蓉子			
者電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850			

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大
 - 2 事業内容
 - (1) コンサートホール(12事業)
 - ・ヘンデル:メサイア公演
 - ・大学オーケストラ×OEKジョイントコンサート
 - ・ランチタイムコンサート 他
 - (2) 邦楽ホール(8事業)
 - ・松竹大歌舞伎
 - ・日本芸能道中
 - ・邦楽ルネサンス 他
 - (3) 交流ホール(3事業)
 - ・おしゃべりクラシック
 - ・音楽堂室内楽シリーズ
 - ・カルチャーナビ(音楽堂アワー等)

計 23事業

3 補助金額
15,000千円

4 総事業費
182,200千円

うち県補助金	15,000千円
自主事業基金取崩	50,000千円
文化庁助成	45,600千円
入場料・協賛金	71,600千円

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	265,000	250,272	206,473	262,241	246,883	321,184

事業費						
(単位:千円)		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	15,847	15,000	15,000	15,000	15,000
	決算	15,847	15,000	15,000	15,000	15,000
一般財源	予算	15,847	15,000	15,000	15,000	15,000
	決算	15,847	15,000	15,000	15,000	15,000
事業費累計		109,880	124,880	139,880	154,880	169,880

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、石川の音楽文化の振興に寄与した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、かつ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度 H2	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名 専門員 杉森 蓉子 者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や、県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

事業の概要
① 芸術文化創作事業
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして著名作曲家にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。(委嘱作曲家:池辺晋一郎)

② 特別文化事業の開催
バレエやオペラなど、クラシック音楽以外の音楽愛好家も対象とした音楽文化の普及事業や、他のオーケストラとの共演、芸術文化創作事業により作曲された新作現代曲を披露する演奏会を開催する。
・オペラ「トスカ」
日時:平成29年8月10日 会場:コンサートホール

③ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。

④ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年から中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。

⑤ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。

⑥ 新人登竜門コンサートの開催
オーディション:ピアノ部門 審査委員:井上音楽監督 他
演奏会:H29.5.14(H28選考:ピアノ部門) 県立音楽堂

補助金額 10,000千円 (石川県・金沢市 同額補助)

これまでの見直し状況

※ H17年度から地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	265,000	250,272	206,473	262,241	246,883	321,184

事業費						
(単位:千円)		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	10,700	10,000	10,000	10,000	10,000
	決算	10,700	10,000	10,000	10,000	10,000
一般	予算	10,700	10,000	10,000	10,000	10,000
財源	決算	10,700	10,000	10,000	10,000	10,000
事業費累計		315,100	325,100	335,100	345,100	355,100

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	ジュニア・オーケストラおよびオーケストラアンサンブル金沢合唱団を、音楽祭やOEK定期公演へ出演できるレベルにまで育成し、本県の音楽文化を担う次世代層のレベル向上に貢献するとともに、オーケストラアンサンブル金沢楽団員等による実践講習会等を通じて、音楽文化の普及にも貢献した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県民がオーケストラへの親しみを深める事業や本県の音楽文化を担う次世代層の育成を図る事業は、本県の音楽文化の普及向上を図る上で、大変重要な役割を担っているため、引き続き、各種事業に創意工夫をこらしながら取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	伝統芸能技能向上支援事業費	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 毛利 優子		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1371 内線 3854

事業の背景・目的
 藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力でもある金沢芸妓による質の高い伝統芸能について、芸の披露の場を創出することにより、県民や観光客が気軽に鑑賞する機会の充実を図るとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

事業の概要

- 芸の発表の場の創出
 - (1) 事業名
金沢芸妓の舞
 - (2) 事業内容
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露する。
 - ①会場
県立音楽堂邦楽ホール和室
 - ②実施期間等
平成29年10月～平成30年3月の実施期間内に年27回開催(3茶屋街×9回)
 - ③開催時間
午後2時～3時(1時間程度)
 - ④出演
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
 - ⑤対象者
県民や県外からの観光客(各回定員50名程度)
- ※全27回のうち、邦楽ホールバックステージツアーを7回実施
 (「金沢芸妓の舞」終了後、30分程度)

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承と発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承と発展					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	113,500	111,144	94,229	109,831	108,895	139,645

事業費						
(単位:千円)		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	3,000	3,000	3,500	3,800	3,800
	決算	3,000	3,000	3,500	3,800	3,800
一般	予算	3,000	3,000	0	0	0
	決算	3,000	3,000	0	0	0
事業費累計		3,000	6,000	9,500	13,300	17,100

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <p>「金沢芸妓の舞」は、藩政期から受け継がれてきた金沢芸妓による質の高い伝統芸能にふれる機会を県民や県外からの観光客に提供しているほか、芸の披露の場を確保することにより金沢芸妓の技能向上にも貢献している。</p> <p>金沢芸妓の舞入場者数 H29:1,603人(H28:1,446人) 音楽堂邦楽ホール利用者数 H29:86,123人(H28:54,363人)</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">拡大</p> <p>多くの県民や県外からの観光客に、茶屋文化に気軽に親んでもらい、芸妓文化を保存・継承し、さらに磨きをかけていくことは大変重要であることから、今後も「金沢芸妓の舞」の上演を通じ、芸妓文化の一層の伝承、発展を図っていく。 H29年度は定員を大幅に上回る来場者数となったため、H30年度は回数を3回増やし、計30回開催する。</p>